



音楽のよろこび

2023年 11月27日 No.53

発行文責 担当事務局

田中正恭 田村乃里子

ようやく秋と思っていたら、はや冬、初冬。どうも体も気持ちも、この日和にはなかなかついていけません。様々異変があるとしても乗り越えていくしかありませんね。

さて今日は「オーボエ」京響首席の高山郁子（たかやまいくこ）さん、そしてピアノは、松井萌（まついめぐみ）さんの登場です。高山さんは本講座2回目。1回目は、この講座1年目歩みだしの頃において頂き、この楽器の歴史、そして使われている「リード」について、その作成の仕方を丁寧に説明され、楽曲についての情熱的なお話と演奏をされました。今回はどんな演奏、お話をされるのでしょうか。

その前に、ちょっと疑問が？オーケストラの演奏会、楽員の皆さまが入場、コンサートマスターが立ち、ちょっと合図。。。するとら〜♪というオーボエの音。管楽器が各々ら〜♪ そして弦楽器もら〜♪、音合わせ終了。ちょっと間があいて、指揮者の入場。演奏がはじまる……といった流れ。どうしてオーボエがら〜♪と最初に鳴らすの???それは高山さんにお聞きしましょう。そして音楽を楽しみましょう。

♪ 前回 「サマーコンサート」 最高でしたね ♪

京響と関西のオケのトップクラスの方の素晴らしいアンサンブルでした。本当に素晴らしいの一言でしたので、ちょっと「リハーサル」の時間の紹介を……。

まず、宮田さんがものすごい集中力で、J.S. バッハの無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ3番を弾かれる。

その演奏を他の演奏家は聴いておられるのですが、終了と同時に松浦さん（ヴァイオリン）が「素晴らしい!!」と拍手。ヴィオラの小峰さんも「全曲アンブで…スゴイ!!」とおっしゃってました。そして名手たちの手を抜かないリハーサルが12:30頃までびっしりされたのでした。アンコールの「アイネクライネナハトムジーク」はリラックスムードで、楽しく音合わせ的に楽しんでおられました。

金本さんは、小峰さん用の指揮棒をちゃんと用意されてました。

ドホナーニのセレナード第3楽章スケルツォは練習の一番最後に「もう一度!!」という念の入れようでした。名手たちのアンサンブル、しかし手は抜かない。金本さんが日頃から言っておられる「どんな事よりも質を落とすことはしない」という本講座の思い入れを感じた時間でもありました。

いつも最高の演奏を目指す演奏家たちの濃密で集中した時間…リハーサル…お世話係をしている事務局の幸せを感じる時間でもあります。



～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したものと
あります。ご了承ください。

伴奏は宮田英恵さんの重厚演奏に驚きました。ヴァイオリン1台の演奏とは思えませんでした。譜面もご覧にならず、感心いたしました。

金本さんと小峰さんのヴィオラ二重奏は、心がはずむ軽妙な響きを楽しみ聴くことができました。お二人の明るい快活な性格があらわれているような息の合った演奏に心躍るようでした。

ドホナー二というハンガリーの作曲家の作品を初めて紹介いただき、がらりと目の前の景色が変わるような驚きがありました。「セレナーデ」という私の貧しい概念をとびこえる力強い骨太の三重奏でした。民族の「血のたぎり」のような曲ですね。松浦さんのヴァイオリンの音が叫びのように響いていました。演奏の方の所属のオーケストラの話もおもしろかったです。小峰さんの指揮も素晴らしい。ありがとうございました。（外村律子さま）

本日のサマーコンサートは、今年の授業の中で最高でした。心から楽しめました。ありがとうございました。

今日はコンサートなので、ペンを持たずに、ゆっくり聴かせていただきました。独奏から5人のアンサンブルと各々の音の重なりが味わえて、すてきな企画だと思いました。

ドホナー二の三重奏は、音どうしがぶつかり合いながら奏でる、意外な響きの美しさも感じました。こんな風に他のオーケストラの方が集まって奏でる音楽を聴く機会をもらえて本当に幸せな時間でした。（藤井さま）

とても楽しいコンサートでした。それぞれのオーケストラのコンサートにぜひ行きたいです。

ヴィオラのデュオが新鮮だった。ヴィオラ単独の音を聴く機会が少ないので、改めて音を感じた。すばらしいコンサートでした。演奏者と同じフロアで、演奏者を囲むようにして聴く形がとても良かったです。今年初めて参加した講座ですが、参加してよかったです。

super player!による、special summer concert素敵な一時を過ごすことができました。one to five、音楽の広がりを感じるナイス企画でした。金本さんの人脈のすごさにびっくり。関西の各オケの様子が伝わるトークでした。小峰コンダクターのサプライズ、一番楽しんでいたのは、ご本人??

ありがとうございました。

とても優雅なひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。小峰さんの指揮、すてきでした。

大変よかったです。サマーコンサート、これだけの演奏が近くで聴けて最高。

ソロ→二重奏→三重奏とだんだん迫力が上がっていく様子がよくわかった。この教室に通って2年目。音楽になじみが無かったのが、演奏会月1回は行き、少しは耳がこえたかなと思う。心が少し豊かになった感じで、気持ちが落ち着き、今日も心地よい音楽を聴かせていただき、幸せいっぱいです。アンコール楽しく聴かせていただきました。

素晴らしい演奏でした。演奏者の人それぞれ力量のある方ばかりで圧巻でした。（この会場では演奏者の皆さんに失礼だったのではと思います。）「コンサート」に限っては、受講生以外にも門戸を開き、それなりの会場で開催してもよいのではと思いました。

すばらしいコンサートでした。贅沢な時間でした。指揮者によって演奏が大きく変わることが、よく分かりました。ぶっとんだ指揮・演奏・楽しかったです。（調子恵美子さま）

本日は、素晴らしい演奏をたっぷりありがとうございました。皆さんのそれぞれからくる音色で、夏の疲れがいやされました。私自身の9月から始まる新しい目標に向けて、力をもらったような気がしています。ガンバロー！！という気持ちになりました。アンコール、最高でした。。（あらきさま）



ソロ・二重奏・三重奏・五重奏と、それぞれ楽しんで良かったです。お話も楽しくて、仲の良さがうかがえます。素敵な演奏、ありがとうございました。四重奏のアンコールも楽しかった。



今日の楽しい演奏をありがとうございました。



本日は、素敵なサマーコンサートありがとうございました。ヴァイオリンのソロから弦楽器の重奏数が増えていくステップを、弦楽アンサンブルの楽しさを、味わうことが出来ました。

厳しい暑さが続き、気がめいってしまう今日この頃ですが、本日はすがすがしい気持ちで帰ることが出来ます。最後にアンコールのパフォーマンス最高でした。（荒木亨さま）



軽やかなヴァイオリン、豊かなヴィオラ、暖かいチェロ、素敵なアンサンブルでした。所属オケの異なるメンバーで、息の合った演奏、素敵でした。

各々のオケの紹介をもっとしていただければと思いました。皆さまの今後益々のご活躍を期待しています。ありがとうございました。（布川博さま）



★事務局へのご意見・ご要望

音楽を学習するというのであれば、机も準備し、楽器ばかりではなく作曲家や国内外の交響楽団のこと等々も講義するというカリキュラムが組めないのでしょうか。

身近に一流の演奏が聴けるという機会はないと思います。少々受講料を上げてでも継続し会場もふさわしいところで開講されていけばよいと思っています。

★事務局より

ご意見ありがとうございます。2024年度は「特別講座」と題し、指揮者、音楽評論家の方をお招きし、お話と共に演奏をお聴きいただく講座を予定しております。（金本さんの人脈とご努力で叶いました。）

会場については2024年度も鴨沂会館で変更はございません。

この講座は「身近にクラシックを」と始めた講座です。受講生は毎年増加で、会場をいろいろ探し回ったのですが、講座日程を年間で「予約」できる会場が見つかりませんでした。コロナ明け以前より、奏者の方と相談しておりましたが、奏者の方から、「ここ鴨沂会館でいいじゃない」とご意見をいただき、鴨沂会館での開催となっております。

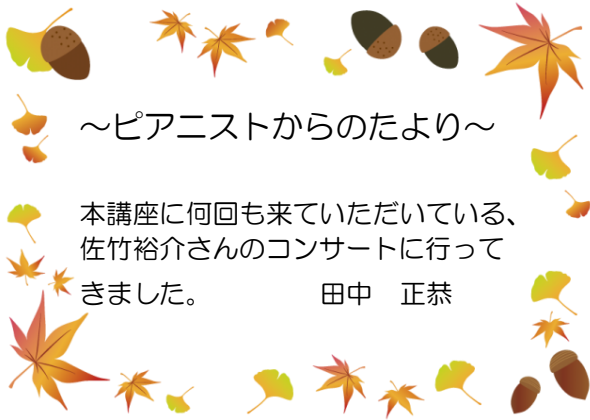
プロの演奏が目の前で聴くことのできるこの講座は、貴重な講座だと思っています。ご不便をおかけすることもあると思いますが、ご了承いただきたく、よろしくお願いいたします。



パレスチナ・ガザの人々は・・・ バレンボイムは、音楽家たちは・・・ 田中正恭

D.バレンボイムは、パレスチナアラブとイスラエルの青年音楽家たちの合同オーケストラ（ウエストディヴァンオーケストラ）をつくり、彼らを育て、ともに音楽活動を続けてきた。ユダヤ人ピアニストにして指揮者。不可能と言われた、ガザでの公演を成し遂げ、まっすぐ前を向いて活動してきたのです。もちろんオーケストラのものが、平和をもたらす話ではないが、互いを理解しあう条件を生み出しうるし、これがなければ、平和について話し合うこともできないとバレンボイムは言うのです。それを確信して今、バレンボイムは、今回ガザでの戦乱に哀しみと怒りを覚えつつも、今後も音楽に希望を託すことを止めないでしょう。同様の思いの音楽芸術科たちはもうひとつの戦争、ロシア・ウクライナの場合でも、たくさんのメッセージを出している事を私たちは知っています。

彼らと同じ思いをもって歩むという事はどういうことかを考え日々過ごしたく思います。



～ピアニストからのたより～

本講座に何回も来ていただいている、
佐竹裕介さんのコンサートに行っ
てきました。 田中 正恭

10月28日の佐竹さんのコンサート、思い出深いものになりました。

本講座の受講生さんも何名か来ておられ、感動を共有できたのではと思っています。演奏会の聴衆一人一人に毎回、右記のような「令状」を出されるピアニスト、そして自身の追求課題をいつも鮮明に示すピアニストもそうはおられないと思います。(60名程度のファンクラブ主催のコンサートだからできるのかも…)

以前、「現在存命のピアニストで佐竹さんが一番尊敬する方をあげるとしたら?という問いに即座に、「ダニエル・バレンボイムです」と言われた理由の一端を示した右記の「たより」「人間について学ぶことができる音楽」を追求するという思いを記しておられます。そのテーマは壮大で深遠です。これからも、佐竹さんの活躍を願うものです。



次回は1月24日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「ニューイヤーコンサート」

木管五重奏

木管五重奏の演奏会は、なかなか聴く機会がありませんね。木管ならではのやさしい音色をお楽しみください。

フルートは木管楽器?

昔は木で作られていたそうです。

ホルンは?金管楽器ですね。なぜ木管五重奏に入っているのでしょうか?



一般的には、フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・ホルン